

災害に強いまち滝川学区をめざして

昭和区滝川学区 震災避難行動マップ

この震災避難行動マップは名古屋市が公表した「南海トラフ巨大地震の被害想定」をもとに、大規模地震が発生した場合を想定して、滝川学区のみならず、お住まいの地域の危険箇所や避難経路などについて話し合い、作成したものです。

この震災避難行動マップをもとに、「いざ」という時どんな行動をとればよいのか日頃から考えておきましょう。

このマップで示す避難ルートは、ハザードマップ等を参考に作成したルートであり、災害時の安全地を確保するものではありません。災害時には状況を確認しつつ、安全なルートで避難してください。

【地域の避難先例】

自宅に住めない場合は、町内で決めた「指定避難所」もしくは協定を結んだ避難場所へ避難しましょう。

(お願い)

自宅の被害が少ない場合は、なるべく自宅で生活しましょう。高齢者や障がいのある方など、自力で避難が難しい方は、地域で協力して避難先へ誘導しましょう。

役に立つもの

1. コンビニエンスストアなど



このステッカーの貼ってある店舗は、「災害時帰宅支援ステーション」として、公共交通機関が不通となったとき、徒歩で帰宅しようとする人たちを支援する店舗です。トイレや避難スペースの提供など災害時に可能な範囲で支援協力が得られます。

2. 災害救援自動販売機

対象となる自動販売機には、停電時でも飲料提供ができることが説明された看板がついています。

3. 下水道施設仮設トイレ

マンホールに直結できる仮設トイレです。避難所のトイレ不足を補います。



このマンホールが印です

カトリック神言修道会 神言神学院

※南山大学体育館

としわ会
昭和区複合型介護施設

指定避難所一覧

- ① 滝川小学校
- ② 滝川コミュニティセンター
- ③ 中京大学

※南山大学(学区外)

名古屋大学
体育館

般若台

中部日本自動車学校

③ 中京大学

香積院

かわな病院

川名中学校

震度5以上の地震で
避難場所設置

② 滝川
コミュニティ
センター

① 滝川小学校

中京大学附属
中京高等学校

いりなか保育園

カトリック聖霊奉待布修道女会

透析医療機関(学区内及び近隣)

名古屋第二赤十字病院	昭和区妙見町2-9
かわな病院	昭和区山花町50【川原学区】

気を付けて!!

1. 空き家

耐震性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険があります。

2. 古いブロック塀や石垣

大きな地震では倒壊する危険があるため近づかないようにしましょう。

3. 狭い道

近くの家が倒壊した時など、道がふさがれて通りにくくなる可能性があります。

4. 電線(高圧線)

切れた電線は停電時でも感電の危険があります。絶対に近づかないでください。また、高圧線の落下にも注意しましょう。

● 凡例

指定避難所	地震の被害などにより住居に被害を受けた方、あるいは被害を受けるおそれのある方を、一時的に受け入れ、滞在させるための施設です。	病院
防火水槽	WC 下水道施設仮設トイレ(マンホールトイレ)	地下式給水栓
地域防災協力事業所	AED(自動体外式除動器)	仮設給水栓
	井戸	公共電話
		避難経路の例

昭和区滝川学区 災害時の特性と対策

南海トラフ巨大地震が発生した場合、名古屋市の中でも比較的強い震度6強ないし6弱の揺れが想定されます。まずは身を守りましょう。このときに怪我をしないよう、日頃から家具の転倒防止などの耐震対策に努めましょう。揺れがおさまった後、自宅が被害を受けたかまたは受けるおそれがある場合は適切な避難を行いましょう。液状化現象が起きる可能性が高い箇所が広がっています。建物が傾いたり、路上に泥水が溢れ出し、通ることができなくなります。これらのことを踏まえ、適切な避難先と、そこまで安全にたどり着くための経路をあらかじめ考えておきましょう。

地震発生！ 災害時の対応

揺れた

●身の安全の確保

- 頭を守り揺れがおさまるまで待つ
- 安全に消せる場合は火を消す
- 家具や家電の転倒や落下、ガラスの破片などに注意



丈夫な机がない時は、クッション、かばん、ナベなど身近にある物で頭を守りましょう

安全にすばい避難行動をとるためにも、自宅の耐震化や家具転倒防止対策は日頃からしっかり進めておきましょう



揺れがおさまった

- コンロやストーブなどの火を消す。万が一火が出たら初期消火
- 家族の安否・家屋の被害状況の確認
- 怪我をしないように靴やスリッパをはく
- 出入り口の確保
- ラジオやスマートフォンなどからの正しい情報の入手
- 非常持出品の準備

地域には、町内会・自治会単位に結成された自主防災組織があり、災害時に初期消火・救出救護等の活動を行います。地域の被害を小さくするため、自主防災組織の活動にご協力をお願いします。



◆自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を！

避難所は、不特定多数の方が避難生活を送るため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。



周囲に在宅避難を知らせよう！



周囲で声かけし、食料や物資を分け合おう！



近所に高齢者や障がいのある方などが取り残されていないか確認しよう！

災害の危険解消
自宅での滞在が可能な



◆避難先へ安全に避難するための5つのポイント

① ガス・水道の元栓を締め、ブレーカーを切る！



② 近所への声かけ！



③ 高齢者や障がいのある方などの避難誘導を！



④ 原則徒歩で！(洗滞抑止・高齢者や障がいのある方などの避難を妨げない)



⑤ 二次災害に気をつけながら消火・人命救助の手伝いを！



一人では逃げられない方への対応

過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、高齢者や障がいのある方などの避難行動を早めました。日頃から一人で逃げられない方を把握し、地域みんなで、いち早く避難行動が取れるよう協力しましょう。

情報の入手や判断が難しい方

(例えばこんな方)

目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障がいのある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など

(対応方法)



優しい言葉でゆっくり声かけ



メモや、身振り手振りで伝える

移動が難しい方

(例えばこんな方)

普段、杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど

(対応方法)



複数で手伝う



身近にあるものを利用する

マンションでの防災

近年起きた震災では、高層建築、共同住宅ならではの課題が起きています。安心して生活するためにも、普段からの備えを進めましょう。

阪神・淡路大震災、東日本大震災ではこんなことが起きた。

- 上層階は揺れ幅が数mあった。通路にあった給湯器の貯湯タンクが次々転倒し、400Lの熱湯が流れ出た。家具はすべて倒れ、ガラス扉を突き破って食器類が飛び出して割れた。
- 玄関ドアやサッシの開閉ができなくなり、閉じ込められた。地上なら進行く人に気づいてもらえたが、高層階では怒から助けを呼んでもなかなか気づいてもらえなかった。

- 電気、ガス、水道が止まった。エレベーターが停止するまで20階近い階段を徒歩で下り下りして水や食料を運んだ。自衛隊やボランティアは地上を中心に活動しており、取り残された。



総会や住民集会などの機会を活用し、避難経路の検証や各家庭での自助の取組(家具の転倒防止、ガラスの飛散防止、保存食や水の備蓄、災害時の家族の連絡方法を話し合う等)について、マンション住民で話し合おう。

マンションは耐震性・耐火性のほか保安面で優れていますが、大規模地震時には長周期地震動による揺れをはじめ、火災延焼、エレベーター停止、断水等によるトイレの使用制限、住民の室内の様子が見えにくい等、マンション特有の懸念もあります。安心して生活するためにも、普段からの備えを進めましょう。

(例)

出典：東京都ホームページ



- 高層建築物は、長周期地震動と共振して長時間、大きく揺れる。(家具の転倒防止。できない場合でも部屋に「ここだけは安全!」という場所をつくる)

- 配水管が安全確認ができるまでできるだけ水を使わない。(下層における汚水の逆流防止。簡易トイレ(便袋)などを活用)

- 地域コミュニティとの良好な関係(日頃の挨拶・声掛け。前本地震では地域と良好な関係を築いていたマンションに、地域の働きかけで支援物資が届いた事例がある)